

受講者アンケート集計（他大学、他学部、農学部）

演習科目：アルプス登山学演習

担当教員：小林 元 他

実習日：平成26年9月2日（火）～9月5日（金）

受講人数：28名

（他学部：人文学部1名、経済学部2名、理学部4名、工学部2名、繊維学部1名

他大学：静岡大学1名、宮崎大学1名、京都府立大1名、鳥取大1名、

日本獣医生命科学大1名、筑波大学大学院4名、福井県立大学大学院1名、

明治大学大学院1名

農学部：森林科学科7名）

1. 演習の満足度について

大変満足	満足	普通	不満	大いに不満	未回答
20	7	0	0	0	1

2. 演習の感想

1) 学んだこと

- ・山の標高により異なってくる植生の違いを実際に登りながら学ぶことができました。また同じ山でも登る経路によってだいぶちがってることがわかりました。
- ・山の歩き方、行動、団体生活など。
- ・植物の説明が良かった。
- ・装備には十分に気をつけなくてはならない
- ・経験したことは信頼できる
- ・山の天気はなかなか分らない
- ・実際に体を動かすことの難しさ
- ・知識と現実の違い
- ・本当の登山について
- ・登山での歩き方。トレランでは軽い荷物で如何に早く走ることが求められるけれど、登山で重い荷物を背負うときにどう歩くかを学べた。ぶれず、安定した丁寧な足の運びが大事だと感じた。
- ・楽しい中には、厳格な安全管理と準備が根底にあることを学んだ。馬目さんのお話で、作業の自動化の大切さを学んだ。日常生活の中から、自動化できることを作っていこうと思った。
- ・装備の準備方法
- ・天気図の書き方・・・2人
- ・登り方、下り方
- ・木や革の名前
- ・馬目さんの体験談
- ・道具の使い方
- ・信州大の人の生活
- ・山岳会の活動
- ・他大学の人たちの研究
- ・葉っぱの名前
- ・初心者連れていくことの大変さ。
- ・これまでおおかかには標高毎に植生の分布が変化することは知っていたが、今回のように各植生帯の推移を確認しながら登山を行ったのは初めてであったので、勉強になった。
- ・一次林と二次林の区別方法は初耳だったため、参考になった。
- ・山には100%安全というものはない・・・2人
- ・臨機応変に対応すること
- ・協力の大切さ
- ・バリエーションルートの過酷さ
- ・天気図の作成方法及び地図の使い方
- ・沢登りを行うには、いくつかの準備や技術が必要であること。
- ・他学部の人と関わって、登山中や宿で様々な話を聞いたこと。
- ・動植物の話、林業の話など。
- ・沢登りや登山の知識

- ・フィールドワークにおける技術・・・2人
- ・自然の雄大さ
- ・山を登るために必要な装備、心がまえ、体の使い方など
- ・防水パッキング
- ・雨の登山
- ・ザイルワークの基礎
- ・沢登りの技術、高山植物の名称、その特徴
- ・ケースバイケース、臨機応変な判断の重要性。
- ・”人と同じことをやらないこと”の必要性（研究でも何でも）
- ・（神経質なまでに）準備を入念にすること。
- ・地図によって現在地を把握する方法。
- ・遡行は寒いということ。
- ・ロープ、カラビナなどを使った安全の確保。
- ・大人数で登る大変さ、その反面楽しさはいつもより倍増であった。
- ・馬目さんの支点構築その他もろもろを間近で見れて大変良い勉強になった。
- ・どういふときにどういふ装備をすればよいのかということが一番勉強になりました。おかげで悪天候で重い荷物を持っているにもかかわらず思った以上に快適に登山ができました。
- ・登山において自分一人で勝手な行動は危険につながり他者にも危険がおよんでしまうこととも感じ、慎重かつ、スピーディーな行動が登山には必要だと学んだ。
- ・装備の重要性
- ・地図の見方
- ・沢の登り方や登山の歩くスピードなど基本的な技術
- ・植生の変化を自分の目で見たこと
- ・大人数で登山をすることが初めてだったので、大人数での行動や周囲への配慮など登山に限らず自ら考えて行動する力が身についたと思います。
- ・元から足が弱かったが、自分の可能なことや自分の行動範囲など自分について学ぶことができ、有意義な実習になった。
- ・沢登りやクライミングの雰囲気学ぶことができた。
- ・必要なスキルとしての天気図の書き方や読図、フィールドワークに必要な準備などが学べた。
- ・馬目さんのほうふな経験を物語るような行動、スピード安定感や危機管理など一流の人の動きにとっても感動した。
- ・夕食後のスライドやお話を聞いて、自分もあのような大きくて美しい山、岩に登れるようになるようにさらに頑張っていきたいと思えた。
- ・樹林帯は高度で変化があり、それを楽しめること。
- ・天気図の気圧、前線の配置から天気を読むこと。
- ・登山の大変さや楽しさを学べた。
- ・今回は天気が悪くて景色は楽しめなかったけど、樹木の種類やキノコを教えてもらって、そういう登山の楽しみ方もあるんだなと分かった。
- ・馬目さんのお話を聞くことができ、今後、自分ももっとやりたいことをやれるような強い人間になりたい。
- ・山へ入るには安全確認、ルート確認、天気の予想など、様々なことに注意をした上で行動しなければならない。
- ・自分勝手な行動は、自分だけでなく、共に行動している人に迷惑をかけ、危険な事故につながってしまう。
- ・沢登り、山登りの形
- ・準備の大切さ
- ・高地での環境の厳しさ
- ・天気図の書き方が少しだけ分かった気がする。
- ・天気によってコースも考えなければいけないと分かった。
- ・キノコの種類がいくつか分かった。
- ・気温が低くても歩いているとかなり暑くなる。
- ・大勢の山のしろうとをつれて山へ行くときのサポート方法
- ・沢登りの雰囲気
- ・山小屋の利用方法
- ・大勢相手の給仕方法
- ・馬目さんの登山技術、体験談、考え
- ・他大学の状況

- ・参加者の人となりについて
- ・素人を登らせる
- ・素人と登る経験はなかなかないので多くのことを学びました。

2) 感じたこと

- ・今回登ったのが今までで一番高い山だったので景観はあまりよくありませんでしたが、山頂に達したときはうれしかったです。
- ・団体行動が山の中で重要であること。
- ・みんなのペースに合わせることに、休憩のタイミングや天気を見て行動することなど、いろいろ考える必要があることを知りました。
- ・みんな無事下山できてよかったです。
- ・日常生活では感じることはない怖さや心地よさ
- ・死が近くにあること
- ・体を使うことの楽しさ
- ・自然は奥が深いこと
- ・沢登り楽しかったです。私たちが安全に沢登りを楽しめるために、先生方を始め、TAさんの大変な労力が使われているんだと身をもって知り、感謝とともにめいっばい楽しもうと思った。
- ・天気図の予習をしてくればよかった。初めてだと難しく感じた。
- ・小林先生、馬目さん、山岳会の方たちの技術や意識の高さがすごく、特に沢登りなどは個人でやろうと思っても出来る事ではなく、本当に貴重な体験をさせてもらいました。
- ・久しぶりの泊まりで実習ということでみんなで何かすることの楽しさを感じた。何もやっていない人がフィールドを体験するならいい実習である。
- ・あいにくの天気であったが、4日間、シュラフ・マットでの寝起き、電波もはらない静かな山荘での生活は楽しかった。今後も公私ともに山を楽しんでいきたい。
- ・キノコごちそうさまでした。
- ・きのこスープおいしかった。・・・2人
- ・きのこが非常においしかったため、山菜やきのこなどにかんする知識を増やしたいとも感じた。
- ・登山自体は初めての経験ではなかったのですが、今回は初見の事が多くて最初の内は若干戸惑いましたが、普段ならなかなか出来ない体験をさせていただいたので、すごく良い経験になりました。
- ・命の大切さも同時に学べたかと思います。
- ・馬目さんの登山に対する熱意がよく伝わってきた。
- ・皆、専門分野が異なるのに、山登りや沢登りに興味をもっており、それを通じて楽しい思い出や意見交換が出来たことは、この実習に参加して良かったと感じた事です。
- ・水や食料の確保や簡易トイレ、寝袋を用意することは、登山の時だけでなく、被災した時に活用できると思った。
- ・登山や沢登りを通じて自然を体で感じる事ができた。
- ・天候に恵まれなかったのは残念だったが、登山の魅力を感じた。
- ・他大学や他学部の人と演習が行えたことは、大変良い経験になりました。
- ・先生方やTAの方がとても頼りになった。
- ・カップを着て登山はむれる。ゴアテックスを過信していた。
- ・登山後のカレーは最高
- ・雨の登山はとても良い経験になった。
- ・安い！
- ・山はとても厳しく少しでも気を抜くようなことがあれば大きなケガにつながるということを身を持って感じました。
- ・事前準備の重要性が入山する上でいかに大切なことであるかを学びました。
- ・TAの信大山岳会の方々（5名）の頼もしさ、同時に尊敬。
- ・集団行動の難しさ。いかにチームをつくるかが、行動のカギである。
- ・山に触れることの楽しさ。
- ・自分の植物の知識がほぼないことを痛感した。ちょっとくらい覚えたいと思う。
- ・一般登山道、バリエーションクライミング…登山といってもたくさんの分野があるが、やはりどれも違った良さがあり、楽しいものであるということ。
- ・ずっと下を向いて歩いていたのがつらかったです。
- ・登山中は他者との助け合いが重要であり、役割分担をし、迅速な行動が必要だと感じた。

- ・登山の見方が変化し、今後、登山を趣味として行きたいと思った。
- ・登山の楽しさ
- ・水や資源の大切さを痛感しました。
- ・山のマナーにも気をつけようと思いました。
- ・頂上付近から見る景色をいつかは見てみたいと思いました。
- ・山での資源のむだ使いは決してできることではないので、普段の生活でも気をつけようと思います。
- ・自然の中に溶け込むことで普段では感じられない自然の流れや読む難しさを実感することができた。
- ・周りには知人がいなかったが、日程が進むにつれて沢山の友人ができ、自分の普段の行動がどのように周囲に影響を与えるか分かった。
- ・全日程にわたって天候は良くなかったが、沢登りは予定通りに行えてよかった。
- ・食事の時や食後に馬目さんの話や他大学の話を聞くことができ、非常によかった。
- ・松田さんや馬目さんが取ってくれたきのこが非常においしかったため、山菜やきのこなどに関する知識を増やしたいとも感じた。
- ・最終日の高地における生態調査や山荘からの景色を見てみたかったとも感じた。
- ・沢登りや登山は初めてだったけど、本当に楽しかった。
- ・体力、筋力のなさを痛感したので、これから卒論でフィールドに出ることも多くなってくるので、きたえたい。
- ・機会があれば、沢登りも登山もしたいと思った。
- ・他大学の方のお話を聞くことができ、さまざまな活動の話を知ることができたので、そういう面でも面白かったし、参加できてよかった。
- ・フィールドワークを行うには、軽い気持ちで行うのではなく、しっかりと責任をもって考え、行動することが大切だと感じた。
- ・馬目さんのような世界で活躍されている方に講師をしていただき、山の話を知ることができたことは、すごく貴重な経験で、ありがたいと思った。もっともっと話が聞きたかったです。
- ・移動が精いっぱい調査まで気が回らないと思った。
- ・もっと色々なものを観察できればいいと思った。
- ・山を登りながら、植物が見分けられたり、キノコの種類が分ったりすると楽しみが増えると思った。
- ・今回は雨で条件があまり良くなかったけど楽しめた。
- ・人数が多いと統率をとるのが難しい
- ・山小屋でのお手伝いがとても楽しかった
- ・来年は沢をやりたいなと思えた
- ・この人数で沢に行こうと思うところがすごいと思ってしまった
- ・馬目さんと山に行けるなんてとても光栄なことですごくうれしかったです。
- ・部外者の同年代と登るのはめったにないことなので、すべてが新鮮だった。
- ・最後の雨でもみんな弱音を吐かなかったのには驚いた。
- ・1日目の沢で自分たちの登山技術が必要とされ、感謝されたのは素直に嬉しかった。

3. 次年度に向けて、要望や改善点

- ・テーピングやライターなど持ってきていなかったのが、持ち物として書いてあればうれしいです。
- ・必需品の中にテーピングやバンソウコウなどがあるとよりよかったと思います。テーピングをして山にのぼる考えが初心者にはなかったのが。
- ・準備や片づけが TA の方中心になってしまっていた。
- ・簡単な役割分担があると、どこまで手伝えればよいか分かり、最初から手伝いやすかった。
- ・個人でテーピングを持ってこればよかったと思った。
- ・トイレトペーパーは少量でよかった。新しいの1つは多かった。
- ・もう少し持ち物や必携品の事を具体的に書いてほしかったです。
- ・人数を減らすべき。
- ・めし代をもっと増やしてゴウカなめしにしてほしい。
- ・装備面について防水、素材のわかりやすい事前指導の必要性。
- ・2日目の沢登りは待ち時間が長く、少し冗長に感じた。
- ・出発時間を分けて、出発時間をずらしたり、待機時間を活かして何か別の説明（ロープの結び方など）を行うとよいのではないだろうか。
- ・出来れば、どこかの山頂に立ちたかったと思いました。

- ・沢登りの滝を登る際、待ち時間が長かった。先生や TA の方の行動が大変になるかもしれないが、宿出発を 2 軍に分けて、時間をずらした方が必要以上に体を冷やすことなくクリアできたのではないかと思った。
- ・必須準備をより細かく明記して下さいと助かります。
- ・沢登りのときの待ち時間が少し長かったです。
- ・先生や TA、宿舎の方々には大変お世話になりました。充実した演習だったと思います。ありがとうございました。
- ・沢登りをもっとしたい。山頂もしくは川の終わりまでいってみたい。
- ・晴れてほしい。
- ・山岳会の方々には頭が上がりません。ありがとうございました。
- ・山菜などを夕食時に食べたりしたらより山に親しみを持つことができると思います。
- ・受講希望者が多く、希望しても受けられない方がいたとのこと。可能ならば（とても素晴らしい講座なので）複数回に分けての開講もご検討くださるとよいと思います。スタッフ（先生方、TA）もお忙しいかと存じますが、可能な形でできればと思います。
- ・大変だと思いますがテント泊がしたいと思いました。2 年前？にはテント泊だったとうかがっています。小屋泊は大変快適でしたが、テント泊の方がより一層登山を学んでいると感じるのではと思いました。
- ・大人数で行ったため、自分のペースで休めなかったのがつらかったです。また、この演習のために相当なお金が増えたと予想以上にかかってしまったので予めいくらかかるか調べておけばよかったと思いました。
- ・森林内の植物種を学びながら実習をしたい。
- ・もう少し専門的なお話を聞いてみたいと思いました。
- ・本当に楽しい実習なので、次年度も開講されることを望んでいます。
- ・滝を登るのに待ち時間が長すぎる。
- ・1 個目の滝を通過した後、待っている間に川を渡らなければトイレをすることができなかつたから、待機場所をかえる必要があるかもしれない。（女子はツェルトでかくしあいながらすることができたが、ツェルトは男子にも必要かもしれない）
- ・装備点検は、すぐ取りに帰る or 買いに行けるように、学校でやった方がよいと思いました。
- ・荷物のチェックリスト等があるとよいと思った。
- ・行動的にはそれほど大幅な遅れはなく、最終日もエスケープではあったものの良い時間に下山できよかったです。
- ・人数が 30 人となると、待ち時間が発生したり前のほうが何をしているかわからないことが多々あり、不安を感じました。
- ・全て満足です。
- ・テーピングを増やす
- ・装備チェックはキャンパスで行ったほうが対処がしやすいように思う
- ・予定変更の際にはその判断に至るまでの過程（考慮した点、危険だと思われる点）も伝えると学生のフィールドワークにも活かしやすいのではないかと